

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUBS 分科会（第 25 期第 4 回）

議事要旨

日時：令和 4 年 2 月 28 日(月) 10:00-12:00

場所：オンライン会議(Zoom)

出席者（敬称略）：武田洋幸、三村徹郎、高田まゆら、西田治文、村上哲明、渡辺京子、
吉田丈人

欠席者：窪川かおる

議題

- （１）IUBS 総会準備について
- （２）IYBSSD2022 との協働について
- （３）その他

- ・ IUBS 役員会議報告（村上）

- ・ スケジュール確認

- ・ テーマ確認

案として Unifying Biology for Changing Earth and Human Life

- ・ シンポジウム，セッション内容，依頼先

- ・ 実行委員会と役割分担

分科会委員 8 名（武田、西田，村上，高田，三村、窪川，吉田，渡辺）＋学会からの出向
総務

財務

プログラム

広報

資料： ・ 準備メモ 220228.docx

・ 第 4 回 IUBS 分科会資料.docx

議事

- ・ IUBS 役員会報告（村上）：会期スケジュールを伝えた。

- （１） IUBS 総会準備について

1. 配付資料(準備メモ 220228.docx)を元に準備状況について報告（西田）
 - ・ 共催・後援団体：BDNJ 生物多様性 JAPAN との共同は再考。
 - ・ 各学会へ送付する依頼状作成を急ぎ準備。
2. 資金調達見込み：現状特になし。情報収集を急ぐ。
 - ・ IUBS からの補助金はある（金額は再度確認）。
 - ・ 参加費は徴収しない。
 - ・ 学術会議からの資金は基本的に会場費なので、期待できない。
 - ・ 動物学会事務局が申請先について情報提供してくれるかもしれない。
 - ・ 各学会から資金提供をお願いできないか？
→多くの学会はむずかしそうだが、植物保護連合は可能かもしれない。
 - ・ 進化学会の木村基金は応募できるかもしれない。
 - ・ 海外からの講演者を招聘する場合はオンラインを想定。最低限の運営費を調達すればいいのではないか。
 - ・ 会期中のケータリングなどの必要経費を引いてあとどのくらい必要か計算必要。
3. 海外からの招待講演者の旅費をどうまかなうか？必要か？
 - ・ IUBS 委員（役員、関係者）と各国代表は旅費が出る。
 - ・ Scientific Program の中心の人たちは来日するだろう。
 - ・ それ以外の招待者は、オンライン（もしくはビデオ）を前提とする。ビデオの方は議論の場には登場していただく。

※ 来日する可能性の高い（常連等）メンバーのリストを IUBS 本部に依頼する。
4. シンポジウム企画について
 - ・ 2つ以上の学会が共同してシンポジウムを企画する。
 - ・ 来日することが確実視されているメンバーを中心に企画する。
 - ・ 各学会から 1 人（なるべく若手に）出向してもらいプログラム委員会を設置する。時間的に学会協賛が間に合わないようであれば、研究者個人として参加してもらう。
 - ・ IYBSSD の活動も関連付けたい。
 - ・ 進化学会は協力依頼済み（村上）。合同シンポジウムも可能。
 - ・ 原則として公開シンポジウムとする。
5. 各学会の準備状況確認
 - ・ 動物学会：先日学会長と武田、西田、窪川が相談（配付資料参照）。協力を確認。
 - ・ 生態学会（吉田）：理事会のたびに協力依頼している。資金調達案：大会 HP に企業にバナーを出してもらってはどうか？ 生態学会 HP にバナーを出してもらっている企業に依頼することは可能かもしれない。
 - ・ 植物学会（三村）：予算について会長から問い合わせがあった。学会からの出向メンバーは東大川北篤氏が候補。プログラム委員会の委員長を依頼する？学術会議の植物科学分科会にも協力依頼済み。

- ・農学（渡辺）：植物保護連合には依頼済み。出向メンバーを各学会から 1 名とすると、複数名出てもらえるかもしれない。
 - ・海洋（窪川、本日欠席）：資料にある窪川のメール参照。
 - ・分類学会連合（村上）：協力依頼済み。複数の学会で一つのシンポジウムを作ることはできる。出向依頼は極地研伊村氏？
 - ・自然史学連合、IUGS（西田）：協力依頼してみる
6. 実行委員会の役割分担について
- ・総務もしくは財務：高田、渡辺。プログラム担当も委員から出す予定。
 - ・IUBS との情報交換：村上、西田、武田
7. 配付資料（準備メモ 220228.docx）の IUBS からのメールにある「PhosAgro」について
- ・おそらく農業由来のリン問題についてであろう。どこかの国の企業と関わっているようなので要注意。
8. シンポジウムの言語について
- ・第 2 日目午前（Academic symposium）は英語、午後（Public symposium）は日本語
9. その他
- ・一般公募のポスター発表は無理せずに可能なら企画。
 - ・シンポジウムの日程の配置を近々 IUBS 本部とオンラインで相談（西田、武田、村上）。
- （2） IYBSSD2022 との協働について
- （3） その他
- ・次回分科会は 4 月のできるだけ早い時期に。